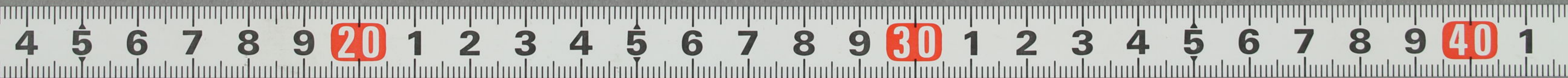
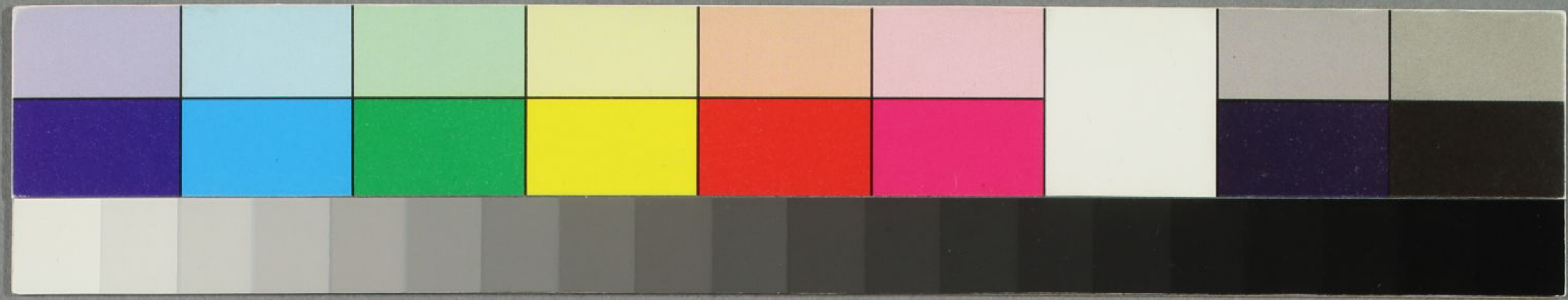


後者酸辛甘京

特別
千 13
3849
44 (1)





門子 18
號 3849
卷 44-

44

役者やくしや 隨ま 辛しん 末ま 藝ぎ 品ひん 定てい

宗しゆ 之の 甚しん 目め 録ろく

かか 之の 趣しゆ 向かう と

永えい 紹しやう 之の

嘘うそ 八はち 百ひゃく

法ほふ 之の 色しき 之の げげ 不ふ

勢せい 之の 出しゆ 乃の 八はち

乃の 之の 乃の

一いつ 風ふう 流りゆう



月香の海とるこ

花車形の

顔付

結掃ら

親に形

森起り人

心は佛乃

芝居好

東京芝居越後者目録

早雲長吉 彦本後川山者

立役之部

極上吉 尾上菊又市

上上吉 尾上新七

上上吉 尾上松助

上上吉 沢村宗十郎

上上 浅尾冬彦

上上吉 嵐 後十郎

実直之部

上上吉 嵐 七又糸

当座で実魚乃 花揚

上上吉 深川付三信

仕交いさしむ仕目も 梨葉

▲款役之部

上上吉 坂田来彦

何とせそさうさうい 春撰

上上吉 坂东彦又糸

糖さだのせうより洋州か 永伝

上上吉 嵐 治彦

ま及よわをいあゝあのとめ 益

上上吉 市川辰十糸

お定りの魚さあゝあゝる 伝糸

上上吉 沢村竹又糸 上 中村森彦

上上吉 沢村と市一糸 坂东中四糸

▲若女形之部

上上吉 姉川菊八

いりらひ低くくぬ 吉雄

上上 芳浜いろは

うらうらゝゝととととととと 玉桂

上上 辰川と 冬

あゝあゝととととととと 初稿

上上 嵐 室の井

ちとけ月がさうい 吉雄

上上 中村吉三助

お智の一曲でととととととと 吉雄

▲色子之分

上上 中村菊助 糸

上上 少老 糸

上上 尾上 糸

上上 嵐 糸

上上 中村 糸

上上 嵐 糸

上上 尾上 糸

上上 嵐 糸

上上 尾上 糸

一尾村石ノ四ノ一尾門波中ノ

一尾之七之部日

上上吉 松 雄 助

中ノ一ノ方ガ相々ノ

因據茶師寺内中芝居新ノ世松之吉也

年十一月八日

為詩日奉一 七冊物

立役実数款役ノ部

穴上吉

萩野伴吉

上上吉

中村富世

上上吉

一尾尾承又

上上吉

中村西太

上上吉

中山吉口

上上吉

江戸坂心

上上吉

嵐 玉 徳

上上吉

中村吉 善

上上吉

嵐 吉十

上上吉

萩野善又

上上 大和山 吉 吉 淑子平

若女形ノ部

上上吉 松山 小源 吉

上上吉 中村 龜 菊

上上吉 小佐川 乙 吉

上上吉 若川 若 松

上上吉 尾上 久春 茂

上上吉 中村 小 市

上上吉 中村 富 助

一尾尾乃 物 一尾村 若 小

一尾上 松 希 一尾村 若 助

一尾村 若 希 若 井

上上吉 小地川 毎 休

○ちんかきくせりまきり

郡は別波の... 安永三年七月廿八日

釋 正甫 信士 俗名 江戸坂 康吉 廿九年 四十九才

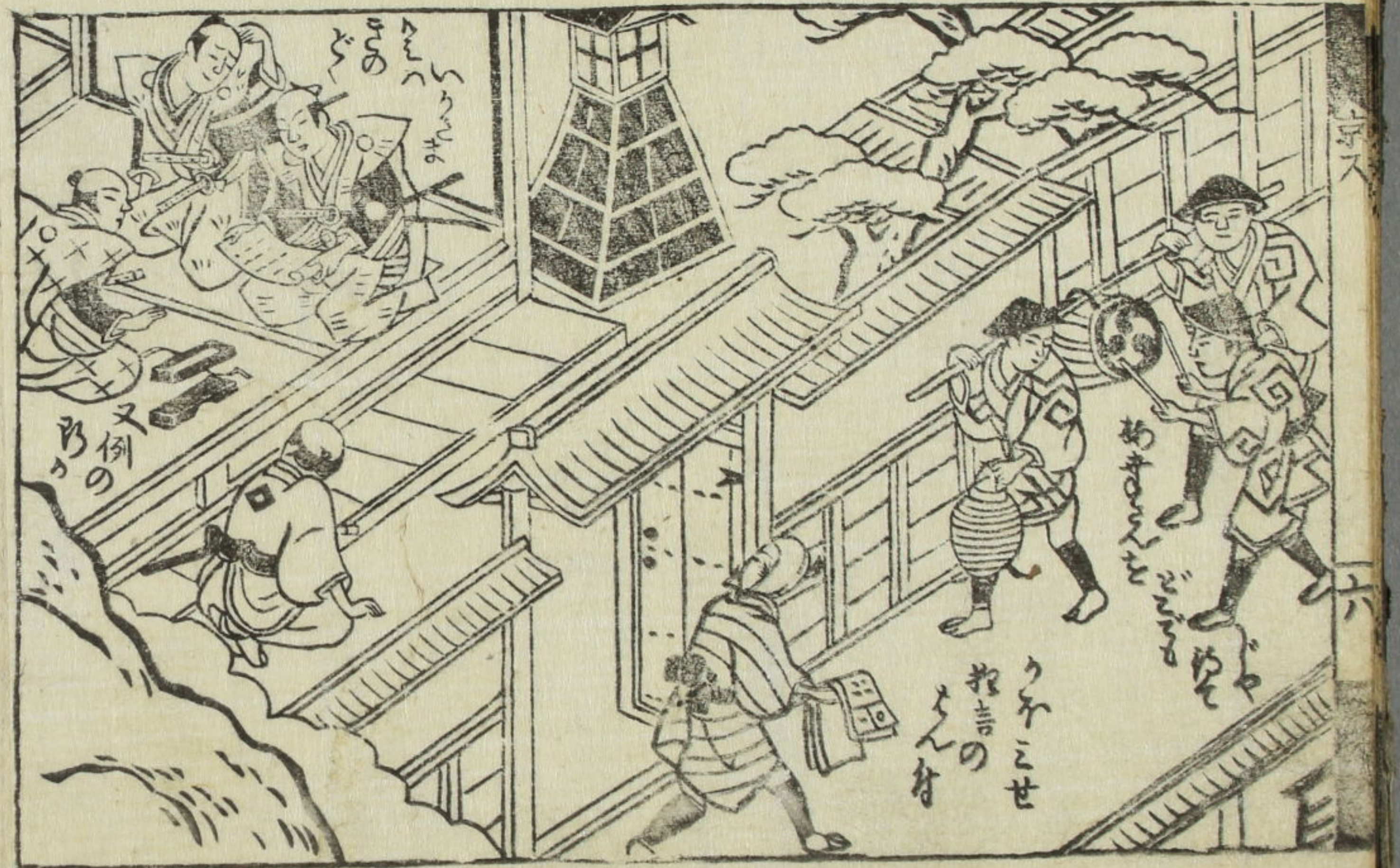
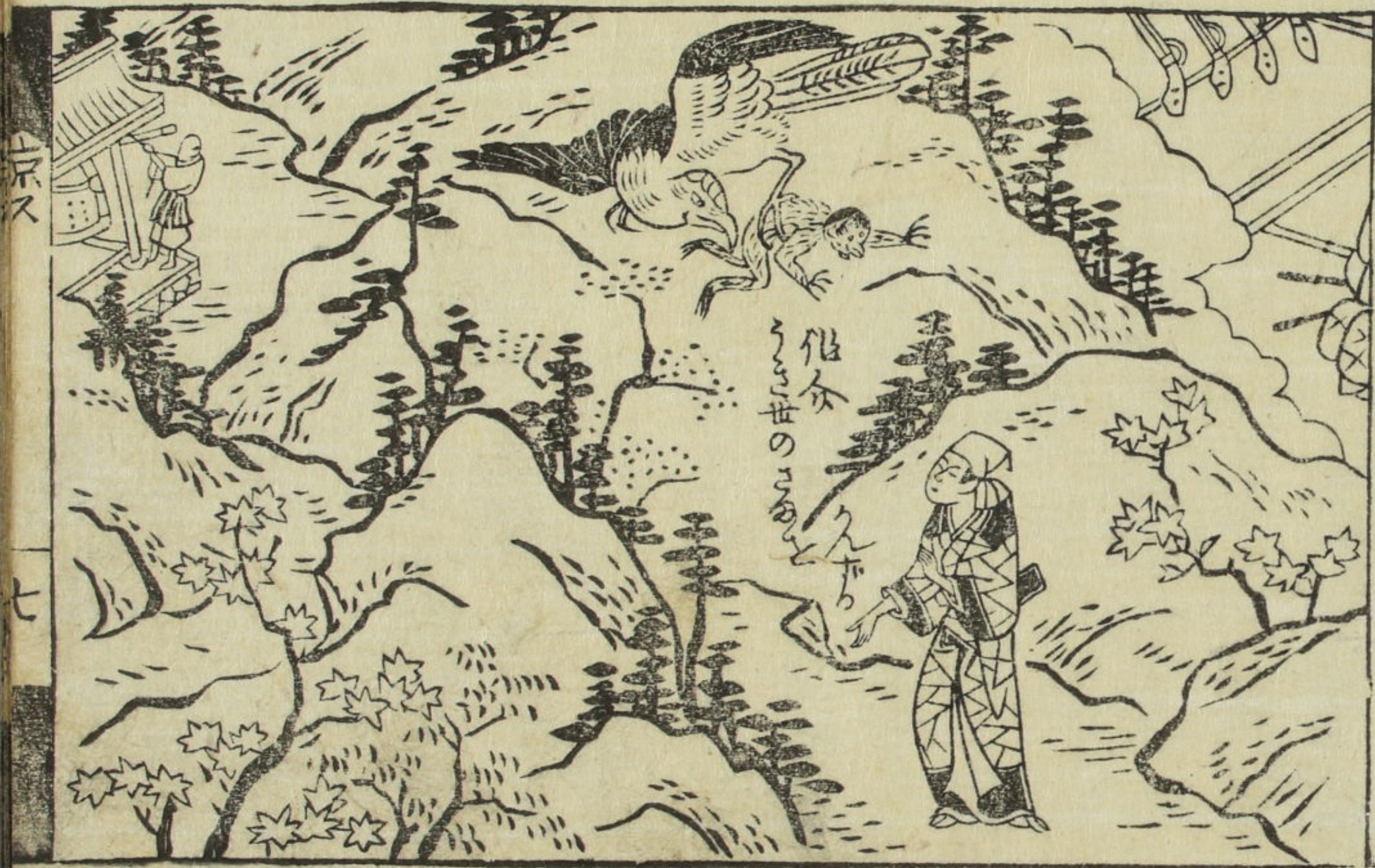
うひききとわいなるの玉を月夜目そ
鏡を式目のはにさふおのきと一海の小
とつらうるおのけは笑言もあまは因役合
ふんまのてどうもまあんあが下未だお
一海とてわはせつらうるそ文

い紙の書よひ知を掃く依今日よあ
まは社かふお務何れを乱るは紅花子こ
四度依えお勅を片と名は若芳助
合とらふまたふ若とらう押はる下

波出勅いの上

けき面儀安本ふきとらぬ必は出勅は之用
けりけいさきと成と下ありとれくは糸
の結び線阿漣の細きよわるま食縁
と梅ふた依おめる細きまうの女房娘
一人おたふさ言とけしははんとてふは

わきんおはるお戀人信らつてさるまうら
月おさるのしらをさるらあらぬ思案を
たをさるらるる推らるらうくおふく
うのひあつる若うらけのさるまじお
ちあつるさしじいへの地のは林お海を
お海のお海くわらるる海舟のあつら
つてさるらるる然の狀様おさるる風信子
と操のうへは松のおまをさてけりお海ひ合
舞のふとあのお松お年うは舞眼とら
ら舞とらるけ信とらるる今もあさる
おまのさるらるらるらるらるらるらる
あつたおまのふとあつたあつたおまの
うまの舞とらるらるらるらるらるらる
とてうのひらるらるらるらるらるらる



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is densely packed and spans the width of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is densely packed and spans the width of the page.

かこもき若さしひもき若さしひもき
方修真いし輝のそよめを今

安水四つの一

らつたれゆき

八文金

地者

自笑

▲立役之部

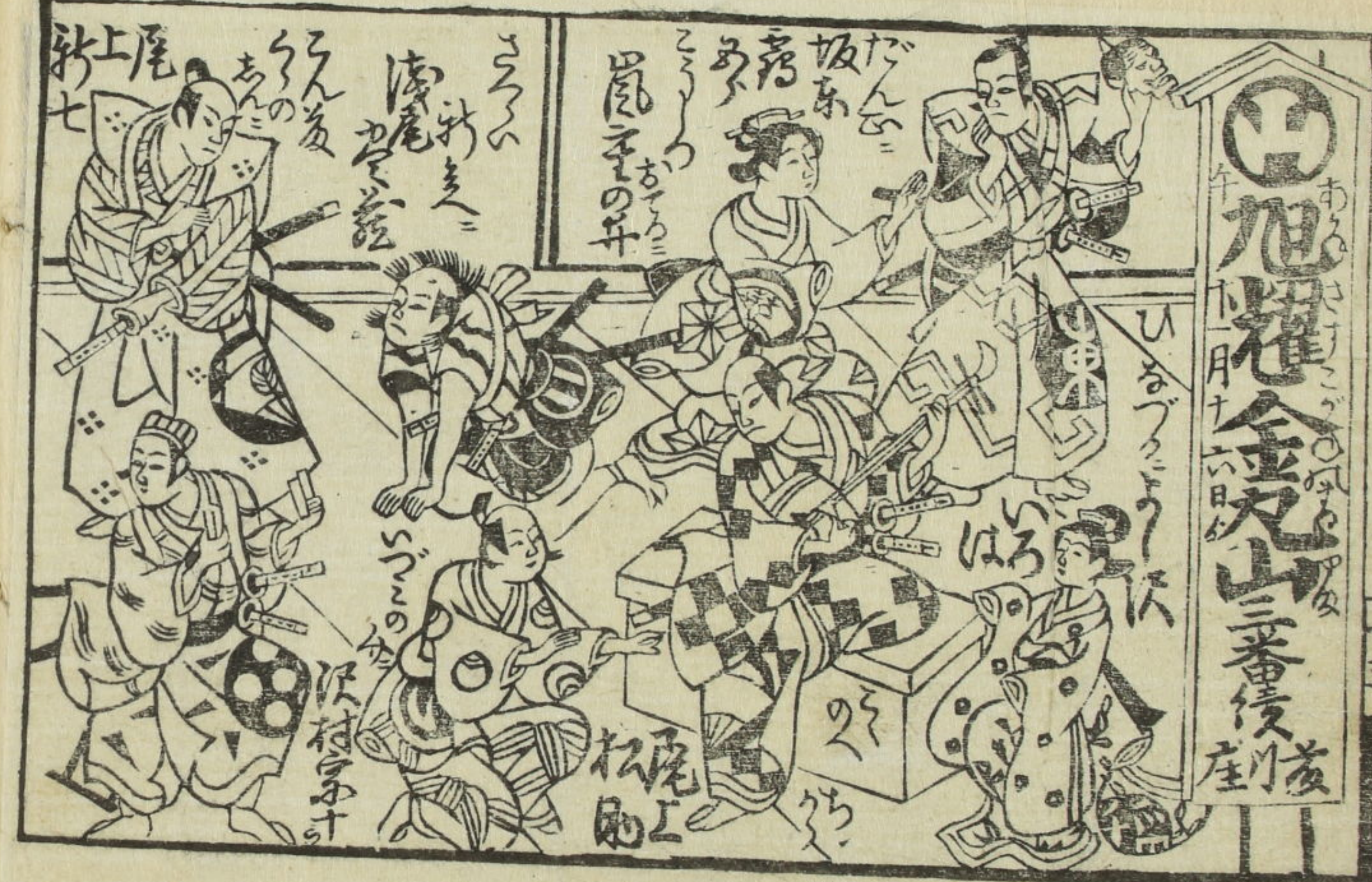
極上吉 粟尾と為立布

極上吉 粟尾と為立布
其真白周旋を遊其真白を春有方樹之花
有白及之泉秋有千星之月冬有粉雪之雪と
そも 両本儀の敷毎の付申くはも 縁は縁
仕真上のおもひおとせ七 四目のおもひおとせ
とみ 極上吉のあらはし 一はおとせのまき
柿のたけまきおとせのたけまき
の 極上吉のたけまきおとせのたけまき
の 極上吉のたけまきおとせのたけまき
あつたおとせのたけまきおとせのたけまき
はつたおとせのたけまきおとせのたけまき
はつたおとせのたけまきおとせのたけまき
はつたおとせのたけまきおとせのたけまき
はつたおとせのたけまきおとせのたけまき

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 15 lines of text, with some words enclosed in small rectangular boxes. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language.

Handwritten text in a cursive script, similar to the previous page. It begins with a large, stylized character that resembles a '十' (ten) with a horizontal bar. The text continues in several lines, with some words boxed. The handwriting is consistent with the previous page.

Handwritten text in a cursive script, continuing the document. It features several lines of text, with some words boxed. The script is consistent with the previous pages. The text appears to be a continuation of the same document.



くらあそびたてをせりて *the same as* *the same as*
 うちまをまゝ入 掬の曲 *the same as* *the same as*
 けがらういふらまゝに *the same as* *the same as*
 刀 *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 の草 *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 太 *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 人 *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 わり *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 ま *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 男 *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 女 *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 か *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 の *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 の *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*

くらあそびたてをせりて *the same as* *the same as*
 うちまをまゝ入 掬の曲 *the same as* *the same as*
 けがらういふらまゝに *the same as* *the same as*
 刀 *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 の草 *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 太 *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 人 *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 わり *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 ま *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 男 *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 女 *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 か *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 の *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*
 の *the same as* *the same as* *the same as* *the same as*

上はなむらじりてはたしめしむるはなむらじりて
 運葉のふりてはなむらじりてはなむらじりて
 たるはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
上のふりてはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
 たるはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
 たるはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
上のふりてはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
 たるはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
 たるはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて

上上 ① 清尾豊秀

上はなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
上のふりてはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
上のふりてはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
上のふりてはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
上のふりてはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
上のふりてはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて

上はなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
上のふりてはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
上のふりてはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
上のふりてはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて

上上 ② 嵐 兼十郎

上はなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
上のふりてはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
上のふりてはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
上のふりてはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて

▲ 実恩之部

上上吉 ③ 嵐 七次郎

上はなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
上のふりてはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
上のふりてはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
上のふりてはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
上のふりてはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて
上のふりてはなむらじりてはなむらじりてはなむらじりて

ふらふらと出立をすてて不意にさう
まゝにふらふらと出立をすてて不意にさう
まゝにふらふらと出立をすてて不意にさう
まゝにふらふらと出立をすてて不意にさう

嘉永二年十一月十八日

一 嘉永院字小芳月園 信長寺の
御年号

上上 山 及川 山


以方日 去年の由緒を考へてお供の山は
中おのれの由緒を考へてお供の山は
中おのれの由緒を考へてお供の山は
中おのれの由緒を考へてお供の山は

上上昔よりとまりひいさ連中のお供
大いにお供の由緒を考へてお供の山は
大いにお供の由緒を考へてお供の山は
大いにお供の由緒を考へてお供の山は

上上 山 及川 山

以方日 去年の由緒を考へてお供の山は

けりてはさやうの御事にては御座候はば
 てもなれは御座候はば御座候はば
 着がむしりのおまはりさうな御事
 なるは御座候はば御座候はば
 るは御座候はば御座候はば

上戸  中村 吉之助

又右曰お前因程未夫十月八日午前
 此の御事にては御座候はば御座候
 御の御事にては御座候はば御座候
 毎日の御事にては御座候はば御座候
 今御事にては御座候はば御座候
 御事にては御座候はば御座候
 今御事にては御座候はば御座候
 御事にては御座候はば御座候

かば御事にては御座候はば御座候
 又右曰お前因程未夫十月八日午前
 此の御事にては御座候はば御座候

上吉  嵐 雛助

又右曰お前因程未夫十月八日午前
 此の御事にては御座候はば御座候
 御の御事にては御座候はば御座候
 毎日の御事にては御座候はば御座候
 今御事にては御座候はば御座候
 御事にては御座候はば御座候
 今御事にては御座候はば御座候
 御事にては御座候はば御座候

先哲の遺訓を今も守るべき者なりと云ふ
[一] 徳は才より勝るべし [二] 信は義より勝るべし
[三] 仁は勇より勝るべし [四] 礼は節より勝るべし
[五] 智は力より勝るべし [六] 孝は忠より勝るべし
[七] 弟は敬より勝るべし [八] 廉は恥より勝るべし
[九] 恥は辱より勝るべし [十] 勇は死より勝るべし
[十一] 義は利より勝るべし [十二] 忠は死より勝るべし

安永四年

末吉の吉日

東之河原に於て

父字屋八右衛門板

